

部門同様、観光業でも世界に門戸を開こうとする積極姿勢がうかがえると思いますが、中国では日本語習修熱と英語のそれとどちらが高いのか、興味のあるところです。

比較は無理かもしれませんが、先年私が滞在した南米では大都会の一流ホテル・空港のカウンターでさえ英語はほとんど通ぜず、専らスペイン語・ポルトガル語が共通語で、慣れない人は意の疎通に苦労することと思います。そこには外国人に対し親切で人あたりのよい、人種偏見のないラテン民族でも、過去

の栄光と誇りを忘れることができない一端がのぞいているように思われてなりません。対して、つい先年まで欧米にかならずしも好感をもっていなかった中国が、今後の発展のためには広く世界の仲間入りをしなければならないという決断のもと、一つのあらわれとして英語教育がとりあげられたのでしょう。

短い期間でしたが、私たちを温かく迎えてくれた中国と中国の人たちの努力に拍手を送るとともに、二十一世紀に向けこの国の繁栄を願わずにはおられません。(秋元 喜弘)

あとがき

世界の甘しょの85%を生産し、馬鈴しょ生産高でもロシアについて第二位という“いも大国”の中国ですが、その生産消費の実態はあきらかではなく、彼の地を訪れた方々の報告書、旅行記などによっていままで断片的に理解している程度でした。

このたび農林水産省ならびに財団法人亜細亜農業技術交流協会の御好意御指導をいただきまして、「いも類に関する農業技術交流団」にはからずも加えさせていただき、短い期間ではありましたが中国を訪ねることができ、たいへん幸せに思っております。ここに御高配に対し厚く御礼申し上げる次第でございます。

中国は広く、交流対象が南の甘しょ、北の馬鈴しょの両方で移動に時間を要し、訪問先でも決して時間が十分でなく、また資料も国際馬鈴しょ研究所(CIP)中国支部から提供を受けたのが唯一で、ほとんどが短時間の聴き取り調査に終始した感で、しかもその内容は概括的なものであり、したがってまさに巨象のごく一部に

触れてみた程度でしたが、それでも中国のいもの担当者、権威者から直接に話をきくことができ、また僅かな機会ではありましたが、生産加工などの現場を見学できたことにより、彼の国のいも事情についての認識が一挙にふくらんだ感じがしました。

この報告書には今回交流に参加した団員各位の見聞事項、所感等を登載しましたが、交流団の編成が多彩で、それぞれ異った着眼点をとおしての記録です。すでに彼の地を訪問され、また滞在された方々は、あるいはこれとはまた別のご見解をお持ちかとは存じますが、既述のように中国のいものすべてを網羅したものでなく、さらに編集の都合上、一部割愛しなければならなかったことを御了承いただきたく、お願い申し上げます。

この報告書が中国のいもに関心をもっておられる方々に少しでもお役に立てばたいへんに光栄であり、今後とも両国の農業技術交流がますますさかんになることを念願してやみません。

(秋元 喜弘)